



代表取締役
川満一史

株式会社 沖縄設計センター

沖縄県那覇市首里末吉町3丁目57番地の6
URL: <http://www.okinawa-d-c.jp>

会社の在り方を考え 社員が育つ環境を整えたい



土木工事の設計を請け負う『沖縄設計センター』。同社の川満社長は、東京で技術を磨いた経験を活かし、現在は地滑りの仕事をメインに、人命に関わる業務を手掛けている。本日は社長のもとをタレントのダンカン氏が訪問。会社の在り方や、人材育成についてお話を伺った。

—川満社長の社会人としての第一歩は、設計のお仕事だったのですか。

最初は土木関係の環境調査会社に入社し、3年ほど地元で環境調査を経験しました。その後、トップレベルの技術を学びたいと思い上京し、東京の会社で10年ほど働くことに。根本となる技術は同じですが、仕事や時間に対する考え方が沖縄とは全く違い、勉強になりましたね。

—こちらの会社との出会いは？

先代が東京までスカウトに来て下さったのですよ。そして、「会社を残すためには一族に後を継がさず、優秀な社員に継がせる」という先代の考え方に強く惹かれ、この会社で働き始めたのです。

—それをわざわざ社長に仰ることからも、先代から社長への期待の高さが窺えます。実際に働かれてみてどうでしたか。

最初は分からないことも多く、大変でしたね。東京では専門性を大切にするため、私は地滑りに関する仕事に特化しておりました。しかし、当社のような中小企業はオールマイティに仕事ができないといけません。先輩方には本当に色々なことを教えていただきました。当社へ入って15年。会社は設立から30年になるので、約半分はいることになります。先代が65歳を迎えたタイミングで会社を引き継ぎ、現在はサポートをお願いしているのですよ。

—社長就任後、変えられたことは？

他の分野の仕事も手掛けつつ、私の専門分野である地滑りの仕事を増やし、地滑りの仕事が約4割を占めております。沖縄では地滑りや崖崩れが多く、そこに人がいなければ自然現象ですが、人がいれば災害です。沖縄は土地柄、家屋が密集しているので、少し土が崩れただけで災害になるのですよ。人の命に関わる仕事なので、絶対に失敗は許されません。

—責任重大だからこそ、やりがいも大きいのでしょうか。ところで現在、社員さんは何名ほどいらっしゃるのですか。

実務に携わる社員が15名、管理業務を担う社員が私を含め10名、全員で25名です。当社は終身雇用でリストラをしないことを第一目標としております。

—それだけ社員さんを大切になさっているのですね。

当面の目標は、今までと同じ収益を上げつつ、残業を0時間にすること。社員には会社以外での時間も大切にしてほしいですね。その上で、一人ひとりが技術者として一人前になってくれれば、と思います。だから、会社を大きくするためにコスト削減として社員の賃金を抑えるなどということは考えておりません。それは先代の経営方針でもあるのですよ。

—お話は尽きませんが、今後の目標についてお聞かせ下さい。

社員数を50名まで引き上げ、県内の大手と言われる企業に並びたいですね。それというのも、現在、全国規模で展開している同業者が沖縄にどんどん参入しています。それに対抗できるだけの規模が50名という社員数なのです。しかし上を目指したいとはいえ、会社はどうあるべきかということを考えると、ただ大きくなれば良いというものでもありません。会社は関わっている人たちが生きていくための糧を得る場所であり、それを提供するのが社長である私の仕事だと思いますから。また、今後は横のつながりを作ることが重要になってくるので、当社としてもアクションを起こしていきたいですね。

(取材／2016年12月)

対談を終えて
ゲスト
ダンカン



「終身雇用制度の実施や、残業を0時間にする取り組みなど、社員を大切にしたい経営方針を貫いているという川満社長。その努力が優良な社員の育成や、ひいては今後の企業の発展にもつながってくるのでしょうか。私も応援しています！」